

令和元年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報総合研究事業）  
（分担）研究報告書

死亡・死因に関する情報の収集とその流れおよびデータ分析に関する国際比較

研究分担者 宮武 伸行 香川大学医学部 准教授

研究要旨

本研究では、死亡診断書（死体検案書）による死亡・死因に関する情報の収集とその流れおよびデータ分析に関して、諸外国の死亡診断書様式、中央集計に至る情報の流れ、電子化の進捗状況について調査、比較する。さらにその過程で、わが国の死因統計にみられた現象について考察する。

調査の中で、特に「老衰」について横断的に検討した。わが国では近年、人口の高齢化に伴い増加傾向にあるが、ヒアリングを行った国々での傾向について確認したところ、特に著しい増加を示す傾向はなかった。わが国との傾向の違いがある点が興味深い。

A. 研究目的

死亡診断書（死体検案書）による死亡・死因に関する情報の収集とその流れおよびデータ分析に関して、諸外国の死亡診断書様式、中央集計に至る情報の流れ、電子化の進捗状況について調査、比較する。さらにその過程で、統計データに関して調査を行った。

B. 研究方法

本研究では文献調査と研究対象国の担当者へのヒアリングを中心に調査をすすめた。特に、死亡診断書様式、中央集計に至る情報の流れ、電子化の進捗状況について調査した中で、わが国では近年、人口の高齢化に伴い増加傾向にある「老衰」について調査を行った。

（倫理面への配慮）

死因統計システムや人口集団に関する研究であり、個人情報や個人が特定できる内容は含まない。研究対象者に対する人権擁護上の配慮、不利益・危険性の排除や説明と同意については、ヒトを対象としないので該当しない。

C. 研究結果

各国における中央集計に至る情報の流れについての調査の過程で、老衰に関する事項についても併せて調査した。文献調査ではアメリカでは、死因としての老衰の少ないことが指摘されているが、直接医師から確認したと

ころでは、やはり「老衰」の死因がつかないとのことで、むしろ他の器質的変化との関連を重視するとのことである。もちろん、剖検で何も所見がなく加齢による変化のみの場合には「老衰」とするが、その頻度は低いとのことである。オーストリアでも「老衰」を死因とする頻度は低く、むしろ心不全が多用される傾向である。アルバニアについても、急激な変化はないとのことである。昨年度も含め、これまで調査した国では、死因としての老衰の増加傾向はないように思われる。

D. 考察

死亡診断書、死体検案書は人間の死亡を医学的・法的に証明する書式である。その記載事項は、わが国の死因統計を作成する際の資料となる。

死因統計は、わが国の保健衛生行政や社会的にも広く活用されており、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつである。近年、死因としての老衰の増加が注目されている。現在の死亡診断書・死体検案書作成マニュアルにも、「老衰」の記載は条件をあげて許容されている。

今回の検討で、いくつかの国における状況を比較したところ、「老衰」は、わが国のような目立った変化はみられていない。むしろ、判断する医師は器質的変化との関連を重視す

る傾向がある。死因の決定に際しては医師の裁量が大きく、死に立ち会った医師の考えが大きく反映されており、アメリカでもその傾向は強い。その点からは、老年人口割合が上昇しているわが国特有の事情が関与することも示唆される。しかしながら、それでよいかどうかには疑問も残る。

#### E. 結論

老衰については、各国とも増加したという報告はなく、わが国特有の事情が関与することが示唆される。今後も併せて海外の動向にも注意を払う必要がある。

#### F. 健康危険情報

該当なし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

Takashima N, Miyatake N, Kinoshita H, Tanaka N, Kurato R, Dokai Mochimasu K, Suzuki H, Fukunaga T. Relationship between death by drowning and air temperature in the 23 wards (municipalities) in Tokyo. *Albanian Journal of Medical and Health Sciences*. 2019; 50: in press.

Uehara C, Miyatake N, Kinoshita H, Tanaka N, Kataoka H, Suzuki H, Fukunaga T. Comparison of deaths by fall as classified by month in the 23 wards (municipalities) in Tokyo. *Albanian Journal of Medical and Health Sciences*. 2019; 51: in press.

Bando M, Miyatake N, Kataoka H, Kinoshita H, Tanaka N, Suzuki H, Katayama A. Relationship between air temperature parameters and the number of deaths stratified by cause in Gifu prefecture, Japan. *Healthcare*. 2020; 8: 35.

##### 2. 学会発表

気温と死因別死亡者数との関係～岐阜県での検討～、板東正記、宮武伸行、片岡弘明、木下博之、田中直子、鈴木裕美、片山昭彦、第90回日本衛生学会学術総会、2020年3月26日～28日、

盛岡市（誌上発表）

#### 3. 関連した実務活動 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）  
該当なし。